

研究会（対面）

要旨

第4日目：8月28日（日）

「SDGs の教育」 研究会

研究代表者 朝岡幸彦（東京農工大学）

本研究会は、これまで ESD 概念の背景と基本枠を確認し、SDGs の実現に求められる教育のあり方について研究してきました。その議論と研究の成果を踏まえて、日本環境教育学会監修『知る・わかる・伝える SDGs』シリーズ本として刊行されました。

そこで、今回は編者から各巻の特徴と明らかになったこと、残された課題などをご報告いただき、会員のみなさんと合評会を行いたいと思います。

<p>I 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生 阿部 治・野田 恵 [編著]</p> <p>巻頭談 SDGsが求める学び / 阿部 治×朝岡幸彦 序章 SDGsとその背景 / 阿部 治(立教大学) 第1章 貧困をなくそう(目標1) / 浅井晋夫(立教大学) 実践: 地域の子どもを地域で見守り育てる / 栗林知絵子(鶴見WAKUWAKUネットワーク) 第2章 飢餓をゼロに(目標2) / 朝岡幸彦(東京農工大学) 実践: 持続可能な生き方のための菜園教育 / 西村和代(一社 エディブルスクールヤードジャパン) 第3章 すべての人に健康と福祉を(目標3) 実践: 微(サマウーマンコンサルティング/NPO法人クルミンジャポン) / 栗本知子・林 美帆(公財 公害地域再生センター) 第4章 ジェンダー平等を実現しよう(目標5) / 秋原なつ子(立教大学) 実践: 男女共同参画推進と目標5の達成 / 佐野敦子(国立女性教育会館) 第5章 安全な水とトイレを世界中に(目標6) / 原田英典(京都大学) 実践: 安全な水を守る実践 / 中村大輔(草津市立波川小学校) 終章 SDGsと教育 / 野田 恵(東京農工大学)</p>	<p>III 生産と消費・気候変動・海の豊かさ・陸の豊かさ・平和と公正 阿部 治・岩本 泰 [編著]</p> <p>巻頭談 SDGsの教育・求められる学び / 阿部 治×江守正多 序章 「SDGsの教育」に向けて / 岩本 泰(東海大学) 第1章 つくる責任 つかう責任(目標12) 実践: フェアトレードタウン運動を通じた学び / 磯野昌子(逗子フェアトレードタウンの会) 第2章 気候変動に具体的な対策を(目標13) 実践: レジリエンスを高める防災学習と地域防災活動 / 栗 節子(都留文科大学) 第3章 海の豊かさを守ろう(目標14) / 清野聡子(九州大学) 実践: 豊かな海を守る人づくり / 桜井 良(立命館大学) 第4章 陸の豊かさを守ろう(目標15) / 阿部 治(立教大学名誉教授)・岩本 泰 実践: 動物園でのSDGs / 高橋宏之(千葉市動物公園) 第5章 平和と公正をすべての人に(目標16) 実践: モザンビーク「録を録へ」平和構築プロジェクト / 竹内よし子(特非 えひめグローバルネットワーク) 終章 SDGsにおける教育の重要性 / 高橋正弘(大正大学)</p>
<p>II エネルギー・しごと・産業と技術 平等・まちづくり 阿部 治・二ノ宮リムさち [編著]</p> <p>巻頭談 SDGsと企業 / 阿部治×長瀬恵美子 序章 SDGs—「持続可能な経済社会」を知る・わかる・伝える / 二ノ宮リムさち(東海大学) 第1章 エネルギーをみんなにそしてクリーンに(目標7) 実践: いわきおてんとSUNプロジェクト / 古澤将太(環境エネルギー政策研究所) 第2章 働きがいも 経済成長も(目標8) / 池谷美衣子(東海大学) 実践: NPO法人ワークスネットかわさきの実践例 / 島村守彦(いわきおてんとSUN企業組合) 第3章 産業と技術革新の基盤をつくろう(目標9) / 福井智紀(麻布大学) 実践: 目標9の達成に向けた長岡技術科学大学の取り組み / 川岸卓哉(川崎合同法律事務所) 第4章 人や国の不平等をなくそう(目標10) / 近藤牧子(早稲田大学) 実践: 格差や不平等を体験し理解する教材実践 / 南口 誠(長岡技術科学大学) 第5章 住み続けられるまちづくりを(目標11) / 山崎嵩拓(神戸芸術工科大学)・別所あかね(東京大学大学院)・横張 真(東京大学) 実践: 市民共創のモビリティ・マネジメント施策 / 東福光輝(富山市環境部環境政策課) 終章 持続可能な未来を「ともに創る」ための教育・学習 / 二ノ宮リムさち</p>	<p>IV 教育・パートナーシップ・ポストコロナ 阿部 治・朝岡幸彦 [編著]</p> <p>巻頭談 教育・パートナーシップ、ポストコロナを考える / 阿部 治×監達京子 序章 ポストコロナ社会におけるSDGsと環境教育 / 朝岡幸彦(東京農工大学)</p> <p>第I部 教育・パートナーシップ</p> <p>第1章 質の高い教育をみんなに(目標4) / 牧野 篤(東京大学) 実践: 深いSDGs教育をめざした実践と挑戦 / 山藤旅間(新瀬戸文化中学校・高等学校) 第2章 パートナーシップで目標を達成しよう(目標17) 実践: パートナーシップで実現する環境教育 / ESD / 飯田貴也(NPO法人新環境活動ネットワーク)</p> <p>第II部 ポストコロナ社会におけるSDGs</p> <p>第3章 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)緊急研究プロジェクト」報告 / 栗 節子(都留文科大学) 第4章 ポストコロナ社会における環境教育の可能性 / 増田直広(鶴見大学短期大学部) 資料: 新型コロナウイルス感染症による環境教育関連施設への影響と対応に関する調査集計結果 / 萩原 彰(京都橋大学) 第5章 ポストコロナ社会における学校での新しい学び / 日置光久(東京大学) 資料: 新型コロナウイルス感染症による国内外高等教育機関の体験的な学びの場への影響に関する調査 / 高野孝子(早稲田大学) 第6章 希望する教育学 / 瀧井祐輔(鹿児島大学) 終章 SDGsと教育 / 二ノ宮リムさち(東海大学)・高橋正弘(大正大学)・岩本 泰(東海大学)・福井智紀(麻布大学)</p>

報告者：

阿部治（全巻編者）、野田恵（第1巻）、二ノ宮リムさち（第2巻）、岩本泰（第3巻）

司会：朝岡幸彦（第4巻）

「原発事故後の福島を考える」研究会

研究代表者 石山雄貴

今期の「原発事故後の福島を考える」研究会では、「福島原発事故の伝承」を研究テーマの一つとしている。2021年度の3月集会では、里見喜生さん（古滝屋16代目当主/原子力災害考証館 furusato 館長）をお呼びし、原子力災害考証館の取り組みについて、地域でさまざまな原発事故との向き合い方があるなかで原子力災害考証館を開館することへの葛藤や、開館後の入館者とのやりとりについてお話し頂いた。

原発事故から10年以上の年月が経つなかで、東日本大震災・原子力災害伝承館や福島県環境創造センター交流棟など、事故による被害について行政サイドからの展示が公開され、被害の様相を一般の方々へ伝承していく公的な場がつくられてきた。しかし、原発事故の伝承に際し、原発事故にはそれ特有の被害を語ることの困難さが存在する。避難における「自主避難」や事故の「終息宣言」、避難指示を解除し賠償を終わらせ、住民の帰還を促していくような政府の方針にあるように、原発事故の被害を場所的にも時間的にも制限し、早急に収束させようとする動きがある。また、低線量被曝をめぐる問題については、その影響が完全には解明されていないなかで、追加被ばく線量に関する基準が、拡大する事故実態に合わせるように政府当局によって引き上げられ、それにつれて被害の有無が取り沙汰される現状がある。政府の方針や基準に則さない被害の様相は、あたかもそれが「無いもの」のように扱われ、それゆえに確かにある原発事故の被害の実態が語るできない状況が生み出される。被害を語ることの困難さは、政府の方針や政府が定めた基準と無関係ではいられない。語ることの困難さは個々人をめぐる家族や職場、地域における様々な関係性のなかで複雑で重層的な構造を持つと考えられる。さらに、忘れがたい記憶を呼び起こすことそのものが持つ暴力性が、語ることを難しくしていることだろう。また、語り手と聞き手の立場が異なることで、聞き手の立場が語ることを困難にしているとも考えられる。

こうした原発事故の伝承をめぐる課題に対して、環境教育がどのように応答可能なのか、応答するためには環境教育にどういった課題があるのかを検討することを本大会の目的とする。当日は、まず私（石山）より趣旨説明を行い、研究会メンバーである根岸富男さんより、環境教育において放射線被ばくを取り上げることにに関する話題提供を頂き、全体討論を行う予定である。議論を通して、環境教育における原発事故の伝承とは、一体どういった営みであり、福島原発事故は主に教育現場においてどのように語り継がれていったら良いのかを参加者の皆さんと考えたい。

「公害教育」研究会

研究代表者 高田研（都留文科大学）

本年（2022年）7月24日、四日市市は四日市公害判決50周年という大きな節目を迎える。「四大公害」では最後の開館となった「四日市公害と環境未来館」は、市立の公害資料館である。「語り部」として、体験に基づいて当時を伝える人びとが、次第に少なくなっていく中、公害の記憶と記録の集積の場であり、公害経験の継承の場である公害資料館が果たすべき役割は、ますます大きくなってきている。

より多くの人びとに、その存在を知ってもらいたい一方、公設型の公害資料館は「明るい未来に向かって」という公害からの再生をメッセージとして伝えがちである。地域の未来を明るく描くことは、人びとの共感は得やすい。だが、「公害被害を繰り返さない」ために「公害から学ぶ」という真の目標達成に向けて、それだけでよいのだろうか。次世代に公害の教訓を繋ぐという観点からも、検討が必要である。今、なにを公害から学ぶ必要があるのかを改めて検討し、公害資料館の教育資源化について関係者とともに方向性を探りたい。

本研究会では、これまでの研究蓄積をもとに、多くの方々の協力を得て、「公害とあらためて出会い向き合うため」(p.5)に、『公害スタディーズ』(ころから、2021年)を刊行した。今回は、「公害経験の継承と公害資料館—四日市を事例として—」をテーマに、四日市市（四日市公害と環境未来館）に光を当てることで、公害経験の継承における公害資料館の意義と課題について考えたい。具体的には、『公害スタディーズ』で「公害資料館への招待」を執筆した2名より報告を行う。神長唯会員（都留文科大学）は「四日市公害と環境未来館」の紹介および同館を活用した大学教育実践について報告する。清水万由子氏（龍谷大学）には公害資料館における公害経験の継承についての理論的な提起をいただく。2報告を受け、長く四日市での公害反対運動に取り組み、近年ではその経験を生かし「四日市公害と環境未来館」で「語り部」として活動されている伊藤三男氏（四日市再生「公害市民塾」）に、公害経験の継承における課題や公害資料館における「語り部」活動の現状について、お話いただく。

報告者：神長 唯（都留文科大学）
清水万由子（龍谷大学）
伊藤 三男（四日市再生「公害市民塾」）

参考文献：伊藤三男『青空のむこうがわ』、風媒社、2022年

「環境教育プログラムの評価」研究会

中口毅博（芝浦工業大学）

本研究会は環境教育プログラムの評価手法を「評価指針」としてWeb公開し、その指針に則って実践の収集とまとめを行ってきた。その中で、評価という用語の捉え方の重要性や再整理の必要性が指摘され、本研究会におけるスタンスを発信することを模索してきた。また、現場における様々な評価の困難を確認するとともに、実践者と研究者の連携が求められていることが議論されてきた。

「環境教育プログラムの評価」研究会の目的は、大きくは環境教育の評価に関する学問体系を提案することである。それに向けたプロセスとしてプログラム評価に焦点を当てるとともに、プログラム実践の現場で応用可能な手法の開発と検証を行うこととした。しかし、多様な環境教育に関する実践や研究の蓄積が進む昨今において、それらを整理統合することは容易ではない。そこで、本研究会における評価の指針やそのスタンスを総説としてまとめ、それに基づいた事例に関わり、環境教育における研究蓄積を推進すること、および、実践者が第三者的視点で自らの実践を客観視できることに貢献することが必要であるとの認識に至った。

これらを踏まえて、以下の①～⑤の区分に基づく事例を論文投稿・公開することを目指し活動を進めている。

- ①環境教育の評価の総説
- ②学校教育
- ③社会教育
- ④プログラム改善のための評価
- ⑤テーマ別評価（例：気候変動教育）

今回は、それらの進捗を確認するとともに、特に②学校教育と③社会教育に関し、対象となる事例を定め、それを題材に具体的な評価項目を提案、検討するための意見交換を行いたい。

【プログラム】

1. 趣旨説明
2. 学校教育および社会教育における事例紹介と評価項目の提案
3. グループディスカッション

※ 学校教育と社会教育のグループに分かれ、評価項目内容や適切な方法論等に関する意見交換を行う予定です。

4. 全体ディスカッション

「気候変動教育」研究会

白井信雄（武蔵野大学工学部環境システム学科 教授）

2050年のカーボンゼロ社会の実現が共通目標となるなか、社会転換とそれとの相互作用を担う人の転換が急務となっている。このため、本研究会では、転換期を先駆ける気候変動教育について、対象別・目的別（高校生・大学生・社会人一般、フロントランナー等）のプログラムの考え方の整理、プログラムの開発・共有を行うことを目的として、2021年秋に設置した。これまで2回の幹事会、1回の研究集会を開催し、①気候変動教育の実践事例や検討状況の共有と社会像・人材像、②気候変動教育プログラムが持つべき要件・留意点、③気候変動教育プログラムの評価方法について、検討を重ねてきた。例えば、気候変動教育プログラムが持つべき留意点として、次のことが重要である。

- ① 緩和策と適応策とともに、技術対策と根本対策（構造的対策）があり、特に社会・経済・文化のあり方に関わる根本的対策（社会・経済・文化を変える対策）が重要である。社会・経済・文化の転換、それと一体にある自己の転換を、共にデザインし、実行できる力を身につけるものであること。
- ② 地域の政策と連動し、学びの成果を実践につなげ、実践を通じた学びを行うというように、地域の気候変動政策の現場に直結する教育とすること。教育のための教育にしないこと、講義時間での教育プログラムではなく、政策と連動する教育システム（教育のエコシステム）をデザインすること。
- ③ 専門性の高い内容であるため、発達段階にあわせて、カリキュラムオーバーロードにならないようにすること。学校のニーズに対応し、現場の先生だけでできる教育プログラムの開発を目指すこと。

本研究会では、9月に研究会の幹事を中心としたワークショップにより、さらに気候変動教育のエコシステムやプログラムが持つべき要件を検討する予定である。その後、プログラムの開発・試行・評価の希望者を募集するとともに、研究会独自にゼロカーボン社会のビジョンに関する対話プログラムを開発する予定である。今回の研究集会では、今後の検討に関する注目すべき動きを共有し、広く意見交換ができればと考えている。

【今回の研究集会の内容】

- (1) 気候変動とSDGsのシナジーとトレードオフについて
- (2) ESD活動支援センターにおける気候変動教育(仮)コンセプトペーパーについて
- (3) 「パリ協定を受けた成長戦略としての長期戦略」等に関する論点について
- (4) (1)～(3)に関する質疑応答

知る・わかる・伝えるSDGs



●日本環境教育学会 監修
各定価2,200円

目標1~17はもちろんポストコロナ時代のSDGsも網羅した全4巻シリーズが刊行!



SDGsをより深めていくための手がかりとなる、これまでにないSDGsの必読テキスト。環境教育・ESD研究の成果をふまえ、「SDGs」と「教育」に関わる幅広い論点を扱う。教育分野の専門書として、SDGsの各目標の背景や問題の本質を学ぶために最適。

I 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生

阿部 治・野田 恵 編著

II エネルギー・しごと・産業と技術・平等・まちづくり

阿部 治・二ノ宮リムさち 編著

III 生産と消費・気候変動・海の豊かさ・陸の豊かさ・平和と公正

阿部 治・岩本 泰 編著

IV 教育・パートナーシップ・ポストコロナ

阿部 治・朝岡幸彦 編著

SDGsカリキュラムの創造

—ESDから広がる持続可能な未来

●田中治彦・奈須正裕・藤原孝章 編著

定価2,200円

「持続可能な社会の創り手」の育成とSDGs学習について、実践例を元にSDGsカリキュラムを構想、羅針盤を提供。



スタディガイドSDGs

●黒崎岳大 著

定価2,310円

SDGsについて学ぶ、大学生をはじめとした初学者の方へ向けた入門テキスト。理解するべきSDGsの基本概念について解説。



SDGsと学校教育

総合的な学習／探究の時間

—持続可能な未来の創造と探究

●小玉敏也・金馬国晴・岩本泰 編著

定価2,200円

「総合的な学習／探究の時間」において、「変革を促す教育」を実践する教育潮流をつくり出すことを目指す。



カラフルな学校づくり

—ESD実践と校長マインド

●住田昌治 著

定価1,980円

元気な学校は元気な教職員から!!じわじわと染みわたる等身大の学校変容。住田校長が多様性時代の学校づくりを語る。



SDGsと学校教育

教職概論

—「包摂的で質の高い教育」のために

●岩本 泰・小玉敏也・降旗信一 編著

定価2,200円

日本の学校教育、これからの教育及び教職のあり様を考える。



社会変容をめざすESD

—ケアを通じた自己変容をもとに

●曾我幸代 著

定価3,850円

ESDを自究し、ケアの観点から未来の可能性を教育からの変容に見出す。



動物園・水族館教育

●朝岡幸彦 編著

2023年2月刊行予定

SDGs実現のための動物園・水族館教育(環境教育)のガイドラインを提案。

—すべての人びとが、意識を持ち行動につなげるために



SDGs時代のパートナーシップ

—成熟したシェア社会における力を持ち寄る協働へ

●佐藤真久・関 正雄・川北秀人 編著

定価3,300円

市民企業・自治体...等の先進的な取り組みの事例と課題・展望を多角的に論考。

「ESDでひらく未来」シリーズ



社会教育・生涯学習論

—すべての人が「学ぶ」ために必要なこと

●鈴木敏正・朝岡幸彦 編著

定価2,090円

課題とそれらに取り組む諸実践を具体的に示し、今後の発展方向をさぐる。



SDGs時代の教育

—すべての人に質の高い学びの機会を

●北村友人・佐藤真久・佐藤 学 編著

定価3,300円

SDGsの実現に向け、教育を通じた人材育成や知の創出を目指し多彩に論じる。



持続可能な未来のための教育制度論

●小玉敏也・鈴木敏正・降旗信一 編著

定価2,530円

解決が必要な教育課題の解決に向け「自分ごと」として構想することを目指す。



SDGsとまちづくり

—持続可能な地域と学びづくり

●田中治彦・枝廣淳子・久保田崇 編著

定価3,300円

地域人材を育てるための「学びづくり」に注目。教育活動の実践等の事情を紹介。



教育の課程と方法

—持続可能で包摂的な未来のために

●鈴木敏正・降旗信一 編著

定価2,530円

現代教育の基本的課題をふまえ、包括的な内容をもつ新学習指導要領にも対応。



SDGsと環境教育

—地球資源制約の視座と持続可能な開発目標のための学び

●佐藤真久・田代直幸・蟹江憲史 編著

定価3,300円

持続可能な開発を環境的側面から掘り下げ、SDGsの環境教育的な視座を提起。



持続可能な地域と学校のための学習社会文化論

●降旗信一 編著

定価2,090円

4つのキーワードを組み合わせ持続可能な学習社会の創造へ誘う。



SDGsと開発教育

—持続可能な開発目標のための学び

●田中治彦・三宅隆史・湯本浩之 編著

定価3,300円

グローバルな問題解決、持続可能な世界の実現を目指す全ての人々をナビゲート。

市民のための環境公開講座2022

オンライン
無料

開講30周年！参加者30,000人突破！！

認識から行動へー地球の未来を考える9つの視点ー

特別講座

8/21 (日)
10:00~
11:30

館内外の
魅力を
たっぷり
ご案内！

「環境水族館」アクアマリンふくしま オンラインツアー

アクアマリンふくしま 飼育展示部 展示第2グループ
上席技師/弁財天うなぎプロジェクト リーダー 春本 宜範氏



7/6
(水)

安定した地球環境（グローバル・コモンズ）を未来に引き継ぐために

地球を維持
するための
挑戦とは？

東京大学 理事
グローバル・コモンズ・センター
ダイレクター
石井 菜穂子氏



7/20
(水)

アドベンチャーレースの世界から見る自然界

話題
沸騰中の
プロアドベンチャー
レース！

プロアドベンチャー
レーサー
田中 陽希氏
田中 正人氏
「Team EAST WIND」所属



8/3
(水)

伝統知と生態系を活かした防災・減災

自然災害に
備える知恵
とは？

京都大学
准教授
深町 加津枝氏



9/7
(水)

誰でも気軽に楽しく 食品ロス削減に参加できるクラダシ

食品ロス。
誰もが参加
できる、その
対策とは？

株式会社クラダシ
代表取締役社長
CEO
関藤 竜也氏



9/21
(水)

四国一小さな徳島県 上勝町から広がるゼロ・ウェイスト

人はなぜ、
ごみを捨てる
のか？

株式会社
BIG EYE
COMPANY
Chief
Environmental
Officer
大塚 桃奈氏



10/5
(水)

土壌から考える気候変動と食糧危機

土が温室
効果ガスの
発生源!?

国立研究開発
法人森林研究・
整備機構森林
総合研究所
主任研究員
藤井 一至氏



10/19
(水)

企業が取り組むサステナビリティ ～「サントリー天然水の森における生物多様性の意義」～

「天然水」で
おなじみの
サントリー

サントリー
ホールディングス
株式会社
チーフ
スペシャリスト
山田 健氏



11/2
(水)

農業と農村の未来を拓くソーラーシェアリング (営農型太陽光発電)の最新動向

新しい農業
モデルの
最新動向と
は？

千葉
エコ・エネルギー
株式会社
代表取締役
馬上 丈司氏



11/16
(水)

変革のレシピ ～誰一人取り残さない環境教育～

未来へ繋がる
環境教育
とは？

環境活動家・
ドキュメンタリー
映像作家
佐竹 敦子氏



「市民のための環境公開講座」
は、(公財)SOMPO環境財団、
損害保険ジャパン(株)、(公
社)日本環境教育フォーラム
(JEEF)の3者が協働で開催す
る、1993年に開講した歴史あ
る環境講座です。
2022年は無料のオンライン講
座として全9回開催します。

詳細・申込はこちら

